

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520062

研究課題名(和文) 寺院仏教とソーシャル・キャピタルー過疎・中間・過密地域の比較

研究課題名(英文) Temple Buddhism and Social Capital: Comparison between depopulated regions and cities

研究代表者

櫻井 義秀 (SAKURAI, YOSHIHIDE)

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：50196135

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「過疎と寺院」という30年来の問題設定を超えた人口減少社会における寺院仏教のあり方を展望するものである。具体的には、各地域における寺院の過疎化や高齢化への対応に加えて、檀徒・信徒(門徒)のメンバーシップと行事参加(信仰の深まり)が、寺檀関係や檀家同士の紐帯を強化するだけでなく、地域社会への参加、他者への信頼、社会倫理の獲得に結びついていく事例を調査分析した。また、寺院が行う社会貢献事業(ビハラー、傾聴、地域福祉的活動など)のバリエーションを示した。なお、本研究の成果は、「人口減少社会と寺院-ソーシャル・キャピタル創成をめざして」として2016年度に法蔵館から刊行予定である。

研究成果の概要(英文)：This study delineates the outlook for the role of Japanese Buddhist temples, especially in depopulating regions, which was so far discussed as a critical agenda among Buddhist denominations for over thirty years. The researches we conducted aimed to find out not only countermeasures against depopulation and aging of temple members, but also unique cases in which membership and participation in temples' ceremonies enhanced their integration into temples and regions in addition to the acquisition of general trust and social ethics. Another social works such as establishment of Buddhist hospice, conducting active listening by volunteers, and regional social welfares were also studied. In 2016 the book titled "Temples' action in depopulating regions in the effort to generate social capitals," will be published by Hozokan.

研究分野：宗教社会学

キーワード：過疎 人口減少社会 寺院 ソーシャル・キャピタル 地域福祉 ビハラー 傾聴 仏教

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、2009年から真宗大谷派北海道教区の過疎問題対策特別委員会に陪席し、教区の協力を得て2010年度は瀬棚・江差、夕張・空知、利尻・礼文、根室・標津地域の過疎地域、2011年度には札幌の寺院過密地域における寺院と門徒、地域社会との関係を調査した。その結果、過疎地域では寺院がソーシャル・キャピタルを維持しながら地域消滅まで緩やかなソフトランディングをはかっていること、過密地域では寺檀関係が葬儀・法事のみで収斂し、僧侶が儀礼執行で忙殺され、信仰復興や社会教化の暇すらないことが明らかになった。

しかしながら、この知見では北海道の地域的限定を免れず、寺檀制度の強固な本州との比較が必要である。本研究によって調査地域の拡大と対象教団を増やすことで寺院仏教が果たすソーシャル・キャピタル形成へのプロセス因果的なモデル構築を行い、現代仏教研究に資したいと考えたものである。

### 2. 研究の目的

本研究では、仏教寺院が地域社会形成に果たす役割を過疎地域(限界集落)/中間地域(地方都市)/過密地域(大都市)において明らかにし、宗教施設が今後の日本社会におけるソーシャル・キャピタル形成に果たす潜在的可能性を議論するための基礎的な資料提供を目的とする。具体的には、真宗大谷派、浄土真宗本願寺派、真宗高田派、浄土宗の各宗派で上記の三地域で調査を行い、浄土・真宗系教団における寺院・門徒間の関係と地域における社会関係の重なり具合を比較検討する。

### 3. 研究の方法

本研究では、寺院の社会的機能を項目ごとに調べ上げるだけでなく、檀徒・信徒(門徒)のメンバーシップと行事参加(信仰の深まり)が、寺檀関係や門徒同士の同朋意識を強化するだけでなく、地域社会への参加、他者への信頼、社会倫理の獲得に結びついていくというソーシャル・キャピタル論の抽象的な命題を観察可能な行為・イベントから分析する。

具体的な計画として、研究代表者と分担研究及び大学院生、また分担研究者と学生達により、寺院による地域のソーシャル・キャピタル形成の過程を共同で調査する。初年度は各宗派の教学研究もしくは教区教務所の協力を得て過疎地域/中間地域/過密地域の寺院の選択と住職対象のプレ調査を行い、次年度は門徒を含めた地域住民への面接調査を行う。最終年度は補足調査を行うと共に、研究成果を関連学会のテーマセッション等で行い、書籍出版を念頭に置いた報告書を執筆することにした。

### 4. 研究成果

[2012年]

研究代表者の櫻井義秀は、2012年には浄土真宗本願寺派の福井教区の寺院(福井県福井市、鯖江市、越前町等)と真宗大谷派高山教区(岐阜県高山市荘川町、大野郡白川村等)の寺院を調査した。分担者の大谷栄一は浄土宗の総合研究所での機関調査を主に行った。

川又俊則は真宗高田派の宗務所調査と、津市郊外の過疎地域の寺院調査を実施した。猪瀬優理は、広島県三次市において浄土真宗本願寺派の研究所と共同で調査を行い、また、櫻井と合同で福井県の調査にも参加した。

これらの調査研究の成果は、12月22日京都市の京都キャンパスプラザにて共同研究会を行い、有益な情報交換を行うことができた。また、共同通信の西出勇志氏にも出席してもらい、ジャーナリズムからのコメントと、取材している住職の寺院経営塾についての報告も受けることができた。

[2013年]

北海道大学と龍谷大学、浄土真宗本願寺派総合研究所と合同で滋賀県の本願寺派寺院調査を2013年8月に実施し、真宗高田派では分担研究者の川又が三重県内の寺院を研究協力者とともに30ヶ寺ほどの寺院調査データを蓄積した。調査内容としては、寺院の社会的機能を項目ごとに調べ上げるだけでなく、檀徒・信徒(門徒)のメンバーシップと行事参加(信仰の深まり)が、寺檀関係や門徒同士の同朋意識を強化するだけでなく、地域社会への参加、他者への信頼、社会倫理の獲得に結びついていくというソーシャル・キャピタル論の課題を明らかにする事例蓄積に努めた。

研究成果の社会的発信としては、浄土宗総合研究所主催の「過疎地域における寺院に関する研究会」に分担研究者の大谷が、日蓮宗千葉教区の教化教育研修会に代表者の櫻井がそれぞれ講師として招かれ、過疎と寺院、少子高齢化時代における寺院の社会的役割にかかわる事例紹介や検討会を行った。

[2014年]

櫻井義秀(代表者)は、8月に秋田県藤里町社会福祉協議会、梅林寺・月宗寺、高齢者サロン「よってたもれ」地域住民の自宅それぞれ聞き取りを行い、同町の寺院活動と地域福祉の関連を考察して、各所で研究成果の報告を行った。

川又俊則(分担者)は、三重県内の真宗高田派寺院28カ寺(および曹洞宗・高野山真言宗他)を調査。住職や檀家総代インタビュー、行事参加など行った。主に近郊・過疎の寺院の現況と歴史、地域における寺院の存在意義、講組織による複数寺院の檀家たちの活動実態を調べた。また、三重県の浄土真宗高田派における七里講を通して複数寺院が連携する事例の分析を行った。

大谷栄一(分担者)は、11月に滋賀県甲賀

郡信楽町の浄土宗寺院・来迎寺で開催された浄土宗滋賀教区青年会主催の「別時念仏会並びに檀信徒青年層教化事業」に出席し、参与観察を行い、平成 27 年 3 月には浄土宗滋賀教区所属寺院 470 ヶ寺に「地域社会における浄土宗寺院の社会的役割に関するアンケート調査」を実施した。

猪瀬優理（分担研究者）は、7 月都市部寺院の調査を兵庫県神戸市で実施、阪神大震災後の復興の状況についても調査した。10 月末に広島県三次市を訪問し、地域における福祉・医療活動を含めた活動について住職、坊守、女性門徒等に話を聞いた。2 月には滋賀県米原市の寺院の副住職に話を聞いたほか、あそかピハラー病院を訪問、3 月には福井県福井市の寺院の活動を見学した。

以上の 3 年間の研究を通して、寺院仏教が地域社会のソーシャル・キャピタル形成にどのような役割を果たしているのかに関して、事例から得られた知見という限定はあるが、おおよそ次のようにまとめられる。

櫻井義秀（代表）現代仏教が臨床実践を行う場として地域社会がある。支援を必要としている人たちに傾聴を行ったり、個別の問題解決に尽力することの一つの仕事だが、地域の人たちを巻き込んでコミュニティ内のサポート力を拡充することに行政や福祉団体と協力したり、傷ついたり弱っている人たちが自分の足で立てるような仕掛けを作ること重要な仕事になる。とりわけ、藤里町は日本の多くの中山間地域同様、産業構造の変化によって人口の過疎化と人間関係の疎遠化にみまわれた。自殺者、引きこもり者、不就労者の増加に気づいていた人は少なくなかったが、袴田住職の強力なリーダーシップや社会福祉協議会の継続的な事業がなければ、この現象を地域の問題として認識し解決のために知恵を絞るコミュニティにはならなかった。

川又俊則（分担）住職・檀家の信仰継承と、講組織の活動実態を追究した。人口減少が著しい過疎地域の現況調査をもとに、数世代前からの展開を、個別テーマ「行事」「第二の人生」「兼務」「住職夫人」などに分けた検討も行った。また、鈴鹿市の七里講を調べた。同講は真宗高田派中興の第十世真慧上人を崇敬する人びとの集まりだが、具体的には鈴鹿川中流左岸を中心にした七里一ニカ寺の門徒たちを指している。講の毎月の行事は門徒同士、寺院同士の連携を深め、兼職している住職が高田派寺院の活動を学習する場合に大きな役割を果たしてきた。

大谷栄一（分担）「地域社会と宗教」と「宗教の社会活動」に関する研究成果を公表した。前者では、「ソーシャル・キャピタル」概念を用いることで、「地域社会と宗教」の関係に関する新しい研究の方向性を提示し、後者では地域社会における滋賀教区浄土宗青年

会の近江米一升運動の事例を分析した。

猪瀬優理（分担）社会関係資本論の資本という観点を寺院調査で活かす為に「関係基盤」という概念をよりどころに、寺院との関わりに対してどのような「投資」を行い、そこで得られている「リターン」は何かを探る視点が有効なのではないかと論じた。

最後に、最終的な成果とりまとめは、2016 年に法蔵館から刊行予定の櫻井義秀・川又俊則編『人口減少社会と寺院仏教 - ソーシャル・キャピタルの創成をめざして』でなされる予定である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 8 件)

大谷栄一、現代社会における宗教の社会活動——滋賀教区浄土宗青年会の近江米一升運動の事例、本化仏教紀要、査読無し、3 巻、2015、84 - 119

猪瀬優理、関係基盤としての寺院-社会関係資本論の視点をどう活かすか、龍谷大学社会学部紀要、査読無し、46、2015、87 - 99

櫻井義秀、人口減少社会日本における希望ときずな - しあわせとソーシャル・キャピタル、宗教研究、査読有り、88(2)、2014、77-104

大谷栄一、近代仏教研究は何を問うのかとくに二〇〇〇年代以降の研究動向を中心に、日本思想史学、査読有り、46、2014、84 - 119

川又俊則、老年期の後継者、現代宗教 2014、査読無し、4 巻、2014、115-138

川又俊則、人口減少時代の宗教 - 高齢宗教者と信者の実態を中心に、宗務時報、118、2014、1 - 18.

櫻井義秀、限界寺院からソーシャル・キャピタルの寺院へ、社会と調査、査読無し、10 巻、2013、97 - 101

櫻井義秀、論説人口減少社会における心のあり方と宗教の役割、宗務時報、査読無し、115 巻、2013、1 - 18

〔学会発表〕(計 4 件)

SAKURAI Yoshihide, 'Contested Concept and Activities of Religions As Social Capital in Contemporary Japan,' ISA, July 13-19 2014, Yokohama Convention Center, Yokohama city, Japan

SAKURAI Yoshihide, 'Hope and Relationship in depopulating Japan: "Well-being" and Social Capital,' Celebration of the 34th Anniversary of Daegu Haany University International Conference: The Harmony between Nature and Human, August 1-2 2014, Daegu

Haany University, Korea

櫻井義秀、人口減少社会における寺院仏教の役割 - 浄土真宗寺院を中心として、日本宗教学会学術大会パネル主催、2014年9月13 - 14日、同志社大学、京都府京都市

櫻井義秀、書評テーマセッション 叢書『宗教とソーシャル・キャピタル全4巻』、宗教と社会、2013年6月5日~2013年6月6日、皇學館大学、三重県伊勢市

〔図書〕(計 4 件)

櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編、北海道大学出版会、アジアの社会参加仏教 - 政教関係の視座から、2015、437

太谷栄一、春秋社、仏陀の変貌 - 交錯する近代仏教、2014、421

櫻井義秀・濱田陽編、明石書店、アジアの宗教とソーシャル・キャピタル、2012、302

太谷栄一・藤本頼生編、明石書店、地域社会をつくる宗教、2012、308

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

櫻井 義秀 (SAKURAI, Yoshihide)  
北海道大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：50196135

### (2) 研究分担者

川又 俊則 (KAWAMATA, Toshinori)  
鈴鹿大学短期大学部・教授

研究者番号：40425377

大谷 栄一 (OTANI, Eiichi)  
佛教大学・社会学部・准教授  
研究者番号：70385962

猪瀬優理 (INOSE, Yuri)  
龍谷大学・社会学部・准教授  
研究者番号：60455607

### (3) 連携研究者

なし